

2026年度のALPS処理水の海洋放出は、全8回を計画しており、安全・着実に進めてまいります。

- ▶ 2025年度の海洋放出は、計画通り(全7回)、安全に実施しました。
- ▶ 2026年度は、放出回数:全8回、放出水量:約62,400³m、トリチウム放出量:約11兆ベクレルを計画しています。

年度	回数	処理水の放出量	トリチウム総量 [年間放出基準: 22兆ベクレル]	トリチウム以外の放射性物質の濃度	希釈後のトリチウム濃度*1 [政府の基本方針で示された 海洋放出のトリチウム濃度の上限: 1,500ベクレル/リットル未満*2]	海水のトリチウムのモニタリング結果 [迅速測定*3]		
						発電所から 3km以内	発電所正面から 10km四方	
2026 計画	8回	約62,400 ³ m	約11兆 ベクレル	最新の状況は「処理水ポータルサイト」でご覧いただけます https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/				
2025 実績	7回	55,011 ³ m	約16兆 ベクレル	告示濃度比総和*4 0.083~0.24	規制基準 < 1	最大500 ベクレル/リットル	最大61 ベクレル/リットル	検出せず

*1:海水配管にて採取した試料のトリチウム濃度

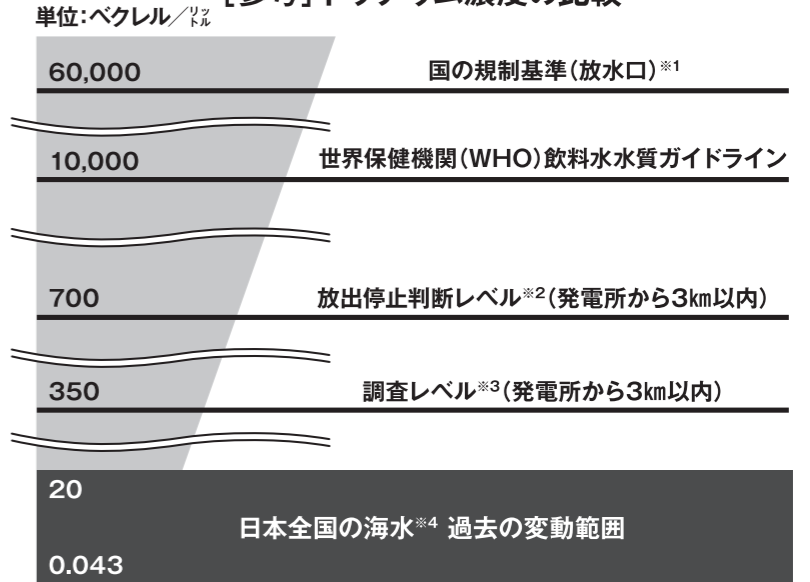
*2:国の規制基準の1/40、世界保健機関(WHO)飲料水水質ガイドラインの約1/7

*3:トリチウムの検出下限値を1リットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る測定

*4:各核種の濃度の法令上の限度に対する比を求め、それを合計したもの

●ALPS処理水の海洋放出は、引き続き、安全性を確保しながら、計画的に進めてまいります。
また、その情報を正確かつわかりやすい形で国内外に発信してまいります。

[参考]トリチウム濃度の比較



※1.70年間、原子力施設の放水口から出る水を、毎日、その濃度で約2ℓ飲み続けた場合に一年間で平均1ミリシーベルトの被ばくとなる濃度から定められた国の規制基準

※2.設備の運用としてALPS処理水の海洋放出を停止する指標

※3.「放出停止判断レベル」に達する前の段階において必要な対応を取る指標

※4.出典「日本の環境放射能と放射線」(期間:2019/4~2022/3)



ALPS処理水の放出実績についてはこちらをご覧ください
▶[放出実績]
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/performance_of_discharges/



各機関が公開した海域モニタリングのデータはこちらをご覧ください
▶[包括的・海域モニタリング閲覧システム(ORBS)]
<https://www.monitororbs.jp/ja/index.html>



皆さまのご意見をお聞かせください
▶[廃炉に関するご意見・お問い合わせ]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>



東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22